

ことばを選んで ことばを楽しんで  
美しい日本語があふれる学校に

台東区立谷中小学校 神田 しげみ

一 はじめに

学習指導要領の改訂で、言語の力を育てることがさらに国語科に求められている。平成二十三年度より新しい教科書による授業も始まる。優れた文章を声に出して読んだり、言葉を選んで書いたりするなど言語活動の充実を図りたい。あらゆる学習の基礎となる語句や語彙を広げ、他教科や日常生活で使うことで言語感覚を磨いていく。伝統的な言語文化にも積極的に触れさせたい。

二 「わたしのつづつづた」を作ろう

(中学年)

まじみちおさんの詩集「つづつづた」や「ものいろいろ」を読み、短い詩を味わう。  
つぶやきから詩ができることに子供たちは驚く。「こんなに短い詩なら書けそう。」と子供たちはやる気満々。様子や気持ちに合った言葉を選びながら、詩を作っていく。

〈作品例〉

ぞう

どうぶつえんの

おおきな じようろ

て

「て」のじがあって

おもしろいな

じしやく

とつても なかよし

「あそびたい」

たまには けんか

「ごめんなさい」

子供たちは、言葉遊びをしながら、いつの間にか詩になっていることに満足そうである。詩は凝縮した表現である。想像力を働かせ、言葉を選ぶことを楽しみながら表現させたい。

三 俳句をつくらう

(中々高学年)

地域の俳人をゲストティーチャーに招いて、俳句作りを行った。  
「俳句はね 五七五で 季語一つ」を合言葉に子供たちは短冊に向かう。

- ・人や草花、鳥や虫に目を向け、観察しよう。
  - ・毎日歩いている道端の不思議を見つけよう。
  - ・命の尊さ、生きている喜びを感じよう。
  - ・日本の四季の美しさを感じよう。
- 世界で一番短い詩を書くためには、自分の感動をどの言葉で表現すればよいか、選ぶ力をつけることが大切である。

俳句を作る前に親しみやすい作者の句を選び、音読や暗唱をさせる。俳句のリズムや文語調の響きに慣れたり味わわせたりすることが重要である。

子規庵がある本区では、台東区俳句人連盟主催の俳句大会があり、全学年が応募している。特選に選ばれた句である。

イナズマの速さのシュート打ちたいな (三年生)  
かきこおりすずしくなるようまいエコ (四年生)  
清流に親子三代鮎釣りに (六年生)  
赤いかさ梅雨をはじて唄い出す (六年生)

## 四 リズムを楽しんで音読しよう

(全学年)

伝統的な言語文化に低学年から親しめるようにしている。

○全校朝会の校長講話の中で短い漢詩や古文を紹介する。

○全学年に暗唱用のプリントを配布する。

○休み時間に、校長室で検定を行う。

○すらすら言えたら、合格証を発行する。

〈取組例〉

「枕草子」

「漢詩」

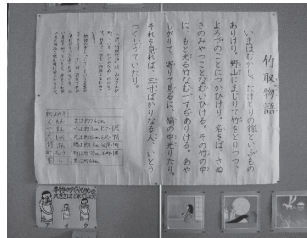
「竹取物語」

「徒然草」

「平家物語」

「論語」

「雨ニモ負ケズ」



繰り返し音読することで日本語の美しい響きを味わわせる。各教室のコーナーに掲示し、いつでも目に触れるように工夫する。

## 五 ゲストティーチャーを招いて

1 平家物語

(高学年)

専門家を呼んで「平家物語」の話を伺った。講師による朗読や琵琶の演奏には興味深く聞き入っていた。和漢混淆文のリズムを声に出

して音読したり暗唱したりした。高学年になると歴史にも興味をもつので、

事前に図書館で調べさせるとよい。

琵琶を弾いたり、当時の暮らしや人々のものの考え方にも触れたりすることができた。

2 落語教室

(四年)

毎年、落語家を呼んでいる。全学年が落語を聞き、日本の笑いを楽しむ。落語のリズムを味わい、オチのある展開のおもしろさを感じさせる。

四年生は、国語科の授業の一貫として、落語家から直接話し方や間の取り方の指導を受けたり、小道具の使い方を教えてもらったりした。手ぬぐいと扇子で手紙を書いたり、そばをすすったりしてみた。その後、子供たちも簡単な落語を演じて楽しんだ。

3 民話や昔話を読もう

(低学年)

朝学習の時間に、週一回、保護者や地域の方が子供たちに読み聞かせを行っている。子供たちは、民話や昔話が好きで、覚えたり繰り返しの言葉を声に出し、楽しんでいる。

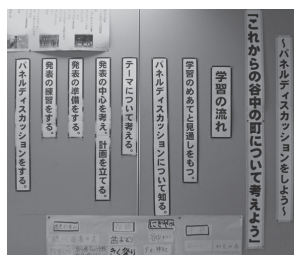


## 六 おわりに

豊かな言語能力を育てる学習環境づくりが大切である。取り上げたのは一例であるが、学校生活のすべてが言語生活であり、国語科の授業はもちろん、他教科においても言語の力を意図的に育てる場とした。

国語科では、相手や場に応じた話し方や書き方ができることなど基本的な言語の力を付ける学習を徹底し、招待状や礼状の書き方、司会の仕方なども丁寧に教えている。本校では、各学年に身につけさせたい話し方の例が掲示されており、活用している。

オープンスペースを生かし、各学年のコーナーには、話し合いや調べ学習の場、読書の場を設けている。教室の壁や廊下の掲示にも美しい日本語があふれるように心がけている。今後も、学校全体で言語の力を育てるといふねらいに沿った取組を行っていきたくと考える。



かんだ しげみ 台東区立谷中小学校校長。台東区教育研究会国語部長。東京都小学校国語研究会作文部所属。